



ふくしものがたり

FUKUSHIMONOGATARI



協働型災害ボランティアセンター運営訓練

訓練場所: 砂沼荘



『災害ボランティアセンター』について

災害ボランティアセンターとは？

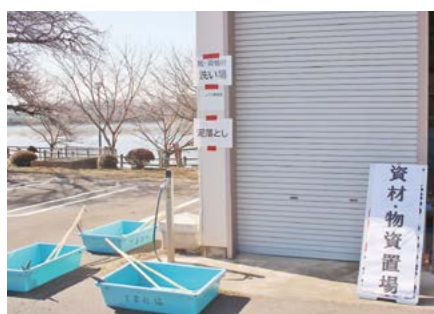
災害ボランティアセンターは、災害（地震、風水害等）が発生した際、被災者や地域を支援するため、臨時的に開設されるボランティアセンターです。大規模災害発生時には、災害ボランティアセンターが拠点となり、市内外から集まるボランティアの力を借りて被災した地域や被災者の生活の復旧・復興に向け支援します。

災害ボランティアセンターでは何を頼めるの？

がれきの撤去や泥出し、被災家屋の掃除など、被災した方であれば誰でも無料で頼むことができます。大きな災害になると地域の助け合いや自分の力だけでは復興に時間がかかり負担も大きくなってしまうかもしれません。もし被災され困ったときには、迷わず災害ボランティアセンターに相談してください。

市地域防災計画との関係

下妻市では、「下妻市地域防災計画（地震災害対策事業計画編・風水害対策計画編）」において「ボランティア活動の支援」が定められています。その中で大規模災害時には下妻市社会福祉協議会がボランティアの受け入れ窓口を設置すると定められています。



下妻市災害ボランティアセンターの流れ

①事前受付・ボランティア保険へ加入

下妻市社協のホームページから、事前受付登録とボランティア保険の加入を済ませてください。



②ボランティア当日受付

災害ボランティアセンターに到着後、スマートフォンで会場に設置してある二次元コードを読み取り当日受付をします。



③マッチング・グループイング

被災者からの依頼内容に基づき、必要な人数のグループをつくり、リーダーを決め、詳しい依頼内容の説明を受けます。



④資材貸出し・送迎

必要な資材等の貸出しのチェックを受けます。必要に応じて作業用車両の貸出しやボランティアの送迎も行われます。



⑦活動報告・活動終了

リーダーが、活動状況を報告します。長靴等の洗浄消毒・うがい・手洗い等を済ませたら活動は終了となります。



⑥資材返却

貸出しされた資材等の汚れを落とし、返却のチェックを受けます。



⑤現地での活動

「被災者に『寄り添う』」という気持ちを大切にしながら、現地での活動を行います。
※令和5年度活動の様子
(取手市災害ボランティアセンター)



令和5年度下妻市災害ボランティアセンター運営訓練の様子



災害時における協定締結団体をはじめ多くの方にご参加をいただきました



防災活動アドバイザー 米沢 智秀 氏

「いばらき災害ボランティア」登録者募集中

茨城県及び茨城県社会福祉協議会では、「いばらき災害ボランティア」の登録をお願いしています。

★登録すると➡災害ボランティアセンターの開設情報や災害ボランティア募集開始情報をメールでお届けします。

★登録方法➡二次元コードから茨城県庁ホームページへ

登録はこちら➡



能登半島義援金中間報告

募金総額 208,409円 (5/1現在)

お預かりした義援金は茨城県共同募金会を通じ、全額被災地にお届けいたします。

皆さまのご支援誠にありがとうございました。

「令和6年能登半島地震災害義援金」ご協力をお願い

義援金箱 設置場所

- ・社協事務局
- ・福祉センター砂沼荘
- ・下妻公民館 1階 正面玄関前
- ・大宝公民館
- ・千代川公民館

引き続きあたたかいご協力をお願いいたします。

※領収書の発行をご希望の方は、社協事務局まで義援金をお持ちください

■お問い合わせ／☎44-0142 総務係

令和6年能登半島地震における職員派遣の報告



派遣先の様子

1月1日に発生した能登半島地震の被災地に、茨城県社協の要請のもと3月11日～17日の期間に職員1名を派遣しました。

現地では、被災者のニーズとボランティアのマッチング業務に従事し、災害ボランティアセンターの運営を支援しました。

地域福祉係 係長 近藤 由紀子

派遣先：穴水町災害ボランティアセンター

【活動報告】

穴水町災害ボランティアセンターは町の中心にある「さわやか交流館プルート」の一角にあり、1階は福祉避難所、2階は一般の避難所として多くの方が生活されていました。災害ボランティアセンター周辺は全壊・半壊の家屋が多く、また、山間部に向かう道路も土砂崩れによる崩落、石垣やブロック塀の倒壊など通行できない道もあり、発災から2ヶ月が経過しているものの手つかずの状態でした。

私の主な活動は、危険が伴うため一般のボランティアでは対応できない場所の現地調査と、専門的スキルをもったボランティアの調整を行いました。応急危険度判定で「危険(赤紙)」と判定された家屋からの貴重品や家財出しなどの依頼が多く、「ボランティアが安全に活動できるか」を確認するため、建築士と現地調査を行いました。また、ブロック塀の解体や撤去などについては、専門的な重機等を使うことから、主に建設業の方や様々なNPO団体の調整を行いました。その方々は、仕事の休みを利用したボランティア活動とのことでした。

震災から4ヶ月経ちますが、今もなお被災者の避難所生活は続いています。一日も早い生活の再建には、ボランティアだけではなく多種多様な専門職の方々の支援が必要であり、重要であると改めて感じました。



「危険」と判定された倉庫



現地調査（軽トラ搬出依頼）



のと里山海道（片側崩落）



洗髪支援会場（避難所）



集落へ向かう道路

災害ボランティア養成講座を開催しました

2月8日(木)に災害ボランティア養成講座を開催しました。講師に下妻市消防防災課危機管理監 河井繁樹氏を迎え、災害への備えや地域での助け合いについての講話を通じて、「いざ」というときに家族や地域で支え合い、災害を乗り越えるための日頃からの備えの重要性を学ぶことができました。また、災害ボランティアの心構えや参加方法を能登半島地震の状況を交えてお伝えしました。



誰もがその人らしく安心して暮らせる地域づくりを目指して 令和6年度 事業計画・予算

基本方針

近年、少子高齢化や人口減少、核家族化、社会的孤立やヤングケアラー問題など様々な課題が顕在化し、さらにコロナ禍の影響により生活様式が変化し、経済活動や人々の交流などに大きな制約をもたらし、地域社会のつながりの希薄化が問題視されています。

このような状況の中、地域で様々な困難に直面した場合における支えあい活動「地域共生社会」の実現に向け、小地域福祉活動やボランティア活動、市民自ら主体的に参加する住民参加型活動などの取り組みがより一層重要となっています。

これらの取り組みは社協の役割そのもので、多様化する生活課題・地域課題の解決を図るため、令和6年度は「下妻市社会福祉活動計画」を策定し、地域の皆様の理解と協力を得ながら、「誰もがその人らしく安心して暮らせる地域づくり」の実現のため、地域全体で支えあう体制の構築を目指してまいります。

また、コロナ禍等さまざまな理由から経済的に困窮する世帯や社会的に孤立する世帯の増加が深刻化しているため、その自立に向けて必要な支援や相談体制の強化及び、諸問題が解決できるよう地域福祉活動の推進に取り組みます。

重点目標

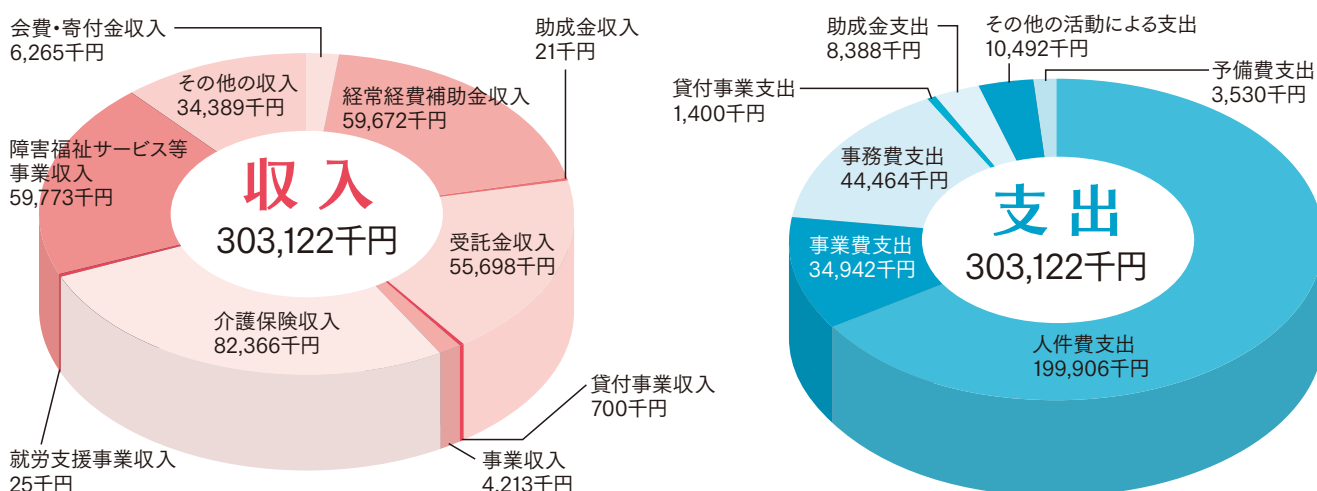
1. 地域福祉活動計画の策定

日常生活における様々な地域課題や福祉課題の解決に向けて、住民・各種団体・ボランティア等の住民参加のもと、地域で行う取り組みの方向性が示された行動計画「地域福祉活動計画」を策定し、地域全体で支えあう体制の構築を目指します。

2. 生活に困窮する世帯への支援を行います

コロナ禍における様々な要因により、所得の減少や失業等のため生活に困窮する世帯に対し、関係機関と連携を図りながら世帯の自立に向け、生活支援や就労支援を継続して行います。

令和6年度 社会福祉協議会収支予算内訳



赤い羽根共同募金の使い道 ―地域福祉助成事業報告―

赤い羽根共同募金の地域還元と使い道の透明性を目的に、まちづくり活動を支援するため「赤い羽根共同募金 地域福祉助成事業」の制度を設けています。令和5年度は環境整備事業や地域交流事業など、9事業 計1,636,000円を助成しました。

現在、令和6年度の申請を受け付けていますので、皆さまの地域でもぜひご活用ください。

令和5年度に助成した事業の一部を紹介します

事業名 イルミネーションメンテナンス事業

団体名▶ 蚕飼地区まちづくり推進委員会 助成額▶ 200,000円

《助成を受けた団体からメッセージ》

赤い羽根共同募金の助成をいただきありがとうございました。私たち「蚕飼地区まちづくり推進委員会」は下妻市南東部に位置する「蚕飼地区」の活性化のため、「やすらぎの里下妻公園」を会場に活動しています。

毎年冬の時期、公園にイルミネーションを設置しているのですが、古くなって故障が頻発していたイルミネーションを頂いた助成金で新しく買い替えることができました。新しいイルミネーションは公園を訪れる人達に大変喜ばれています。



令和6年度まちづくり活動に取り組む事業の申請受付中です

助成額

20万円(上限額)

※年間予算額200万円に達し次第終了となります

募集〆切
(第2期)

令和6年7月31日(水)

対象となる
事業

住民参加によるたすけあい活動、高齢者や障がい者の方への支援、子どもの健全育成、防災・防犯の促進 など

○ 過去に対象となった事業例

- ・災害時や非常時に備え、自治会で所有する発電機や防災テントの整備
- ・地域住民が安心して楽しめる交流の場づくり
- ・整備不十分な地域の道路や小学校周囲の除草など、住みやすい地域をつくるための活動

✕ 制度の対象外となる事業

- ・限られた方の利用で汎用性が低い事業（ゴミ置き場の改修など）
- ・営利を目的とする事業
- ・備品等の個人所有を目的とする事業
- ・その他、寄付者の理解を得ることが難しい事業

※助成事業の対象になるかご不明な場合は、社協までお問合せください

詳細につきましては、社協(☎44-0142)までお問い合わせいただくか、

下妻市社協ホームページ ➡ 地域福祉 ➡ 地域福祉助成事業 をご覧ください。

株式会社ダイナムより参考書の寄贈

3月11日（月）、中学生向けの学習支援「にこにこ学習塾」に、株式会社ダイナム様より公立高校の過去問10冊が寄贈されました。

参考書は、中学生の高校入試対策として学習支援に活用させていただきます。ありがとうございました。



個人登録ボランティア・いきいきサロン世話人合同交流会開催

3月7日（木）に福祉センター砂沼荘において、個人登録ボランティアやいきいきサロン代表者の方々が情報交換と交流を図るため、合同交流会を開催しました。交流会では、健康をテーマに腸の健康・免疫についての講話や腸活体操を行い、今後の活動の向上につなげていただきました。また、最後のお楽しみ会ではチームの団結力と集中力が試される「チーム対抗お豆掴みリレー」を行い、楽しいひとときを過ごしました。

講師：古河ヤクルト販売（株）



フードバンク「食品寄付」

皆さまよりご寄付いただいた食品は、支援を必要としている世帯や市内福祉施設、子ども食堂等へお渡ししています。缶詰1つでも大歓迎！皆さまのご協力をお待ちしています。

◆きずなBOX（食品寄贈ボックス）設置場所

- ・市役所・市立図書館・下妻公民館・千代川公民館・大宝公民館・福祉センター砂沼荘
 - ・JA常総ひかり下妻支店・JA常総ひかり下妻千代川支店・市内ファミリーマート7店舗
- ※持参することが難しい場合は社協までお問い合わせください

◆受取可能な食品

- ・賞味期限が2カ月以上あるもの・常温保存が可能なもの・未開封のもの



不要の入れ歯のリサイクル（入れ歯もリサイクルされます!）

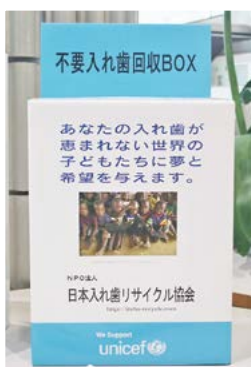
入れ歯には貴重な貴金属が使われているものがあり、リサイクルすることで日本ユニセフ協会を通じて世界の恵まれない子ども達と地域福祉のために活用されます。ぜひ、ご協力ください。

◆回収場所

下妻公民館、千代川公民館

◆お願い！

- ・回収できる入れ歯は金属が使われているものだけです
- ・熱湯消毒か入れ歯用洗浄剤で洗浄後、袋に入れて回収ボックスに投函してください



咲かせよう愛の花

善意銀行 ありがとうございました

2024.2.1～2024.4.30(順不同・敬称略)

古切手

古原 則子

齊藤 千秋

角田 町子

増山 貞子

岩田 弘子

㈱内山建設

㈱丸山製作所

㈱すずき

㈱サンキャスト

訪問看護ステーション たいよう

特別養護老人ホーム ラポールしもつま

下妻市更生保護女性会

下妻市立東部中学校

下妻小学校

認定こども園 ふたば文化

市役所 健康づくり課

匿名 10名

預託金

黒川 30,000円

野口 秋叶 1,384円

昭和34年度卒 総上小学校同窓生有志一同 79,113円

クリーンポート・きぬ 20,461円

㈱井上フード 10,000円

NPO法人 ゆいの会 3,530円

満願寺 2,315円

匿名 3名 計 207,396円

書き損じハガキ

増山 貞子

下妻市更生保護女性会

匿名 3名

生活用品(マスク・紙オムツ・おしりふき・タオル・衣類など)

常陽ボランティア倶楽部

下妻市更生保護女性会

下妻市立東部中学校

匿名 5名

フードバンク(お米・レトルト食品・保存食など)

㈱カスミ

フードスクエア下妻ふるさわ店

フードスクエア下妻店

フードオフストッカー千代川店

㈱TAIYO

フードバンク回収BOX(きずなBOX)

下妻公民館・砂沼荘・千代川公民館・

大宝公民館・図書館・下妻市役所

JA常総ひかり下妻支店

JA常総ひかり下妻千代川支店

ファミマフードドライブ

ファミリーマート市内全店舗

下妻市民生委員児童委員協議会

特別養護老人ホーム ラポールしもつま

浅野 祐美

匿名 8名

お届け先

※食糧品➡お菓子・調味料・お米・ペットボトルお茶など

お茶NOMA

やはた学童クラブ

豊加美学童クラブ

下妻小学校児童保育クラブ

ひまわり学童クラブ

いずみ学童クラブ

個人延べ 89名

※介護用品➡紙オムツ

市内介護施設

ボランティアサークル紹介 vol.1

傾聴ボランティアよりそい

平成22年度より13年間傾聴ボランティアの活動をしており、現在会員は21名です。

会員が2人1組で月1～2回利用者さん宅を訪問し、お話を聴かせていただいています。楽しいこと、悲しいこと、嬉しいこと、辛いこと、日常生活の出来事や思い出等、お一人お一人に寄添って様々なことを聴かせていただいています。

『聴く』ために耳と目と心でお話を聴かせていただくことを心がけており、「今日はよかった。来月も来てくださいね」の言葉を励みに活動を続けています。現在会員を募集しています。活動に興味がある方は社協へご相談ください。



千代川ボランティア会

千代川ボランティア会は、昭和59年度に発会し、現在会員39名で活動をしています。

主な活動としては、千代川地区内小学校の下校時の見守り隊として、月曜日に大形小学校、火曜日に宗道小学校の各地区の危険な交差点に立ち、立哨指導をしています。私たち会員も子ども達の元気な姿にパワーをもらっています。

これからも社会福祉協議会の事業にも協力をしながら、会員一同力を合わせて楽しいボランティア活動が続けて参りたいと思います。



社協ホームページ



社協X(旧Twitter)